

# 日本家族社会学会ニュースレター

Japan Society of Family Sociology Newsletter

No. 64 2020年5月15日発行

編集 多賀 太 (庶務委員・広報担当)  
発行 日本家族社会学会事務局  
〒658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本 8-9-1  
甲南大学 文学部 中里英樹研究室  
☎ 078-435-2601

[Web 公開版]

## 目次

会長挨拶	1
日本家族社会学会第30回大会のご案内	2
各種委員会報告	3

## 会長挨拶

池岡義孝 (日本家族社会学会会長／早稲田大学)

新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大し、日本でも全国に緊急事態宣言が出され、先が見通せない不安な日々が続いていますが、会員の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。財政改善と学会設立30周年の記念行事の実施を目標に掲げてスタートした第10期理事会ですが、このコロナ禍のなかでそれに取り組むという重い制約を課せられることになりました。

各大学も、このコロナ禍に対して前期の授業をどのようなかたちで実施するか、さまざまな対応策を模索しています。このことは、学会にとっても同様です。学会活動を停止するわけにはいきませんから、この状況のなかで出来ることを模索しています。3月末には定例の理事会を開催しましたが、理事の方々の遠方からの移動によるリスクを回避し、また会議室でのいわゆる3密状態を避けるために、はじめてWeb会議で実施しました。また、4月末には、研究活動委員会による第30回大会の自由報告の募集のメルマガに、新型コロナウイルス感染拡大に対する学会としての対応についてのコメントを掲載させていただきました。

学会活動の中心は、学会大会の開催と機関誌『家族社会学研究』の発行を通じて会員の皆さまの研究成果を公表することにあります。機関誌の方は、若干の発行の遅れが出そうですが、ほぼ予定通りに編集作業が進んでいます。9月の東北大学での第30回学会大会も、現時点では予定通りの開催を目指しています。ただし、すでにご案内のように、対人接触が濃厚なポスターセッションを中止することにしま

したし、開催校の東北大学では、社会的距離を十分にとれるよう通常より大きめの教室を確保して下さっています。そのうえでテーマセッション等の公募がなされ、現在は自由報告の公募中です。もちろん、今後の感染拡大によっては、さらに何らかの変更を加えることがあるかもしれません。しかし、学会大会は機関誌とならんで学会活動の生命線です。学会としては、会員の皆さまの研究成果の公表の機会を何とかして確保することができるよう取り組んでいく所存です。また、こうした研究面だけでなく、新型コロナウイルス感染拡大とそれに伴う自粛等によって、会員の皆さまの生活面に今後さまざまな影響が出てくることも予想されます。学会としては、事態の推移をみながら、会費減額等の特別措置等を検討することも考えています。これらについては、学会のメルマガ、ホームページ、学会大会のホームページ等でお知らせしますので、ご確認をよろしくお願いいたします。

会員の皆さまの健康と安全をお祈りするとともに、この事態が一刻も早く収束に向かうことを願いたします。

## 日本家族社会学会第30回大会のご案内

田中重人（第30回大会実行委員長／東北大学）

第30回大会は、東北大学川内キャンパスで開催いたします。

1. 日程：9月12日（土）-9月13日（日）
2. 会場：東北大学川内キャンパス  
〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1  
仙台市営地下鉄東西線「川内」駅下車徒歩8分

### 3. 参加費等

	参加費		懇親会費	
	事前	当日	事前	当日
一般	3500円	4500円	4500円	5000円
学生	2500円	3000円	3500円	4000円

### 4. キャンセル料

大会参加費：事前に振り込んでいただいた参加費は、原則として返金いたしません。

懇親会費：①災害等で、大会開催7日前までに懇親会を中止せざるをえなくなった場合、事前に振り込んでいただいた参加費は全額返金します。②大会開催6日前から前日までに懇親会を中止せざるをえなくなった場合、返金額、返金手続き等につきまして、ウェブサイトでご案内します。

### 5. 災害等の対応

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行状況によりまして、大会を中止する可能性がございます。この場合、ウェブサイト等でご案内いたします。

また、当日宮城県に特別警報または暴風警報が発令されたり、公共交通機関が運休となった場合にも、大会を中止する場合がございます。決定がぎりぎりになる場合を想定して、第30回大会 Twitter アカウント (<https://twitter.com/jsfstaikai>) を開設しましたので、Twitter ユーザーのかたはご参照ください。

## 6. 昼食

第1日（9月12日(土)）は、キャンパス北側の生協食堂が営業予定です（会場から徒歩3分）。

第2日（9月13日(日)）は、生協食堂は休業のため、各自で昼食をご用意ください（御弁当の手配はいたしません）。

## 7. 宿泊

宿泊につきましては、各自での手配をお願いいたします。

## 8. 託児サービス

託児サービスについてはただいま手配中です。詳細は、大会ウェブサイトでお知らせいたします。

## 9. 無線 LAN

キャンパス内では、eduroam（国際学術無線 LAN ローミング基盤）が使えます。

## 10. 大会に関するお問い合わせ

〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1 東北大学文学部 田中重人

E-mail: [jsfs-taikai@bunken.co.jp](mailto:jsfs-taikai@bunken.co.jp)

COVID-19 対応のため、大学施設立入が限定されておりますので、ご連絡は E-mail にてお願いいたします。

また、ウェブでの大会申し込み、参加登録、事前納付等についてのお問い合わせは、以下の日本家族社会学会大会ヘルプデスクにお願いいたします。

E-mail: [jsfs-desk@bunken.co.jp](mailto:jsfs-desk@bunken.co.jp) Fax: 03-3368-2827

# 理事会報告

## 2019 年度第 2 回（第 10 期第 2 回）理事会議事録（抄）（略）

# 各種委員会報告

## 編集委員会

### 1. 32 巻 1 号および 2 号の編集状況について

編集委員会は、学会誌『家族社会学研究』の編集業務を、1 号は東の編集委員チームが担当し、2 号は西の編集委員チームが担当するという二元体制で遂行しています（委員長は両方に関わります）。昨年 9 月から 10 期の最初となる 32 巻 1 号の編集活動が東のチームによって開始されました。編集作業が大詰めとなった今年 2 月から 3 月に新型コロナウイルス感染拡大によって大学を含む社会の活動が多大な影響を受けることになりました。それ以前からいくつかの事情で遅れぎみだった 32 巻 1 号の編集作業がさらに遅れることとなってしまいました。そのため、この号が会員のお手元に届くのは、予定発行日をかかなり過ぎることになります。発行を楽しみにしてくださっている会員各位、とりわけ投稿者・査読者および依頼原稿を執筆いただいた皆様に、お詫び申し上げます。

さらに3月に西のチームで編集業務が始まった32巻2号についても、年度末と年度初めに通常と異なる対応によって各大学の業務が肥大化したことを受け、編集過程にも予想外の負荷がかかっている状況です。そのような中、査読や原稿依頼を受けてくださった会員各位には、心より感謝申し上げます。

こうした社会の危機的状況においても学会活動を維持するため、本委員会もウェブ会議を積極的に導入するなど、物理的接触を避けつつ、コストパフォーマンスのよい新たな編集業務体制の確立に取り組んでいます。皆様からのさらなるご理解、ご協力をいただければ幸いです。

## 2. 和泉広恵委員の急逝を悼む

本学会編集委員の和泉広恵委員（日本女子大学社会学科准教授）が3月22日にご逝去されました。和泉さんは、昨年9月に編成された編集委員（東）に加わり、最初の2回の編集委員会議に参加して、いつもと変わらぬ活躍をされました。しかし、12月にお知らせをいただき、病気療養のため翌年夏まで委員会活動をお休みされることになりました。次巻の編集活動に復帰されることをお待ちしているところ訃報に接した本委員会は、大きな衝撃を受けました。

和泉広恵さんは、単著『里親とは何か―家族する時代の社会学』（2006年、勁草書房）の出版以来、里親家族の社会学的研究におけるパイオニア的存在であり、同時に里親子支援の実践にも精力的に取り組んで来られました。本学会では、編集委員（7期2010-13年）、研活委員（8期2013-16年）、そして編集委員（10期2019年）としてご活躍されてきました。ご研究の面でも、学会への貢献という意味でも、周囲の期待を集める頼もしい同志であっただけに、あまりに早い突然のお別れが残念でなりません。

ここに哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈りいたします。

（野沢慎司・明治学院大学）

## 研究活動委員会

### 1. 第30回日本家族社会学会大会（2020年9月12日・13日）について

新型コロナウイルス感染症の拡大が深刻化していますが、現時点では、予定どおり東北大学で開催する方向で準備を進めています。ただし、今後の状況次第では、開催の中止・延期等の措置を決定せざるをえない場合もあります。その際には、会員の皆様には改めてお知らせいたします。

第30回大会オフィシャルサイトを開設し（<http://www.wdc-jp.com/jsfs/conf/2020/>）、第30回日本家族社会学会大会ニュース No.1 を発行しましたのでご確認ください。今大会でのシンポジウムは、「〈家族の多様化〉と〈子どもの福祉〉は両立するか？（仮）」として、パネリストに、「子ども」に関する諸現象を「子ども社会学」という視点から分析している元森絵里子氏、生殖補助医療をジェンダー論と生命倫理学の視点から分析している柳原良江氏、ステップファミリー、里親養育、親族養育など「中途養育者」を支援する活動をしている町田彰秀氏に登壇いただきます。討論者の松本伊智朗氏には「子どもの貧困」調査から得られた知見などを踏まえて、教育学・社会福祉学の視点から議論を深めていただきます。これらの議論を通じて、「家族の多様化」と「子どもの福祉」についての理論的・実践的な議論を前進させる場をつくりたいと考えています。

その他の企画ですが、企画全体公募型テーマセッション・国際セッション・ラウンドテーブル・書評ラウンジなどの企画申請は、4月24日に締め切りました。採択結果は個別に連絡しています。

自由報告の申込みは、報告要旨原稿とともに5月28日（木）締切です。上記の「大会オフィシャルサイト」でお申し込みください。その際にはマイページと同じID（会員番号）とパスワードが必要です。皆様からのお申込みをお待ちしています。なお、ポスターセッションにつきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止にむけて、近距離での会話を回避するため、今大会では中止といたします。ご理解ください。

大会参加費は例年と同じく、一般（事前）3,500 円、学生（事前）2,500 円、一般（当日）4,500 円、学生（当日）3,000 円です。参加申込みは、7月上旬から上記ウェブサイトにて可能となります。昨年と同様、郵便振替用紙を郵送いたしません。大会プログラム（大会ニュース NO.2）は、7月上旬に大会ウェブサイトでの公開のみです（大会当日には印刷体をお渡しします）。

## 2. 大会要旨集について

昨年度の大会から、電子媒体のみとなります（大会オフィシャルサイトにて大会 10 日前に公開予定）。大会会場でネットにつながりにくい場合が考えられますので、公開後、できるかぎり事前にダウンロードしておかれることをお勧めします。

## 3. 報告申し込みの資格要件について

大会で報告していただく方は、申込み前に、本学会が定めた資格要件を満たす必要があります。メルマガでも周知していますが、大会ウェブサイトでご確認のうえ、年会費の支払い、また新入会員の方は入会申し込みなど、要件を満たしていただくようお願いします。

（嶋崎尚子・早稲田大学）

## 全国家族調査 (NFRJ) 委員会

まずは NFRJ の近況をお知らせします。第 4 回全国家族調査 (NFRJ18) については、2020 年 1 月 25 日に上智大学にて「NFRJ18 研究会 2019 年度第 2 回全体研究会」を開催し、部会を 2 つ設けつつ、のべ 25 個の報告が行われました。詳細については NFRJ ウェブサイトをご覧ください。夏ころに第一次報告書、2020 年度末をめどに第二次報告書を作成する予定です。

NFRJ18 と連動して行われている「全国家族調査質的調査研究会」ですが、インタビュー調査が 101 件に達しました。2020 年度は、収集したデータの分析、調査報告書の作成、公共利用のためデータの作成を予定しています。

また、新委員加入についてお知らせします。東日本国際大学の西野勇人さんが全国家族調査委員会に委員として途中加入することになりました。

最後に、データ公開および研究成果の社会的還元についてです。NFRJ のこれまでのデータ (NFRJ98、NFRJ-S01、NFRJ03、NFRJ08 等) は、東京大学 SSJ データアーカイブや ICPSR を通して公開されており、4 つのデータ (98、S01、03、08) についてはオンライン集計も可能です。ぜひ研究や教育（学部生含む）にご活用ください。その他ご不明な点があれば、NFRJ 委員会事務局までお問い合わせください。また、NFRJ の最新情報は、ウェブサイトをご覧ください (<http://nfrj.org/>)。

（筒井淳也・立命館大学）

## 学会賞委員会

学会賞委員会では、若手、新進研究者の研究奨励の観点から、複数の著書・論文への授与を細則に明文化することを検討してまいりました。このたび、理事会にて「日本家族社会学会賞規程に関わる細則」の改定が承認され、授賞の対象数がこれまでの「原則として 1 点」から「3 点程度」に変わりました。下記の新旧第 3 条をご覧ください（なお、細則は学会賞のウェブサイトからご覧いただけます）。新しい細則に基づき、2021 年度の学会大会で第 2 回奨励著書賞を、2022 年度の学会大会で第 9 回奨励論文賞を授与する予定です。



◎日本家族社会学会賞規程に関わる細則

新：第3条（授賞の期間と対象数）

奨励論文賞および奨励著書賞は、それぞれ3年に1回、3点程度に授与する

旧：第3条（授賞の期間と対象数）

奨励論文賞および奨励著書賞は、それぞれ3年に1回、原則として1点に授与する

（下夷美幸・放送大学）

## **社会学系コンソーシアム評議員**

日本家族社会学会第10期の社会学系コンソーシアム評議員は、池岡義孝会長と白波瀬が担当いたします。また、白波瀬は前任者の嶋崎尚子・現研究活動委員長からニュースレター担当としてコンソーシアム理事を引き継ぎました。

2020年3月26日、社会学系コンソーシアム2020事業年度第1回理事会が開かれ（一部リモートでの参加を含む）、池岡会長が出席されました。そこでは、(1)今期の理事・監事及び評議員のメンバーの確認、(2)財務会計の進め方、(3)理事・監事選挙要領、(4)シンポジウム運営とシンポジウム記録のHP掲載、等について議論がなされました。また、2019年末、社会学系コンソーシアムニュースレター第13号 (<http://soconso.com/newsletter/JCSSNewsletter201912.pdf>) が刊行され、「国際動向」欄に日本社会学会・国際交流委員長の落合恵美子先生と世界社会学会議横浜大会の組織委員長を務められた長谷川公一先生にご寄稿をお願いしました。学会の国際化について重要な知見が記されていますので、ぜひ一読ください。

（白波瀬佐和子・東京大学）

## **庶務委員会・事務局**

### **1. 会勢について**

2020年3月19日時点の会員数は725（一般会員531、一般会員（顧問）7、学生会員114、会費減額会員73、賛助会員0、会費免除会員0）です。昨年、おととしと比べるとやや減少傾向にあります。

### **2. 第29回日本家族社会学会大会 会計決算の監査について**

すべての会計書類について監査を行い、相違ないことを確認しました。

### **3. 今年度の学会事務業務委託契約について**

昨年度に引き続き、4月1日から学会事務業務を委託する契約を国際文献社と3月31日づけで結びました。

### **4. 会費納入について**

新年度の会費納入の依頼がお手元に届いていることと存じます。例年、事務経費軽減のために、可能な限り郵便振込みないしは銀行振込みのご利用をお願いしていますが、新型コロナウイルス感染防止対策として外出自粛が求められる中、カードでの支払いもご活用ください。ただ、カード決済が可能な期間は4-6月ですので、利用申し込みを含め、早めにご対応をお願いします。

また、緊急事態宣言にともなう休業要請等の会員への影響の大きさを測りながら、会費減額等の特別措置等を検討することも考えています。現段階で5月31日までの会費納入が難しい場合は、この間しばらく支払いを遅らせていただいても結構です。

## 5. 会費の減額申請について

常勤職にない会員の方は会費減額申請を行うことができますが、65歳未満の会員については、毎年申請し承認を受ける必要があります。承認の連絡を受けてから会費をお振り込みください。5月末が申請期限となっておりますので、お急ぎください。申請手続きの詳細は、学会ウェブサイト の「お知らせ/人事公募」>「会費減額申請」([http://www.wdc-jp.com/jsfs/notice/not\\_4.html](http://www.wdc-jp.com/jsfs/notice/not_4.html)) に掲載されています。65歳以上の会員の方は、一度承認されれば以後手続きの必要はありません。

## 6. 理事会議事録作成について

2019年12月の理事会幹事会より、笠原良太会員（早稲田大学文学学術院助手）に理事会および理事会幹事会の議事録作成をお手伝いいただいています。

(中里英樹・甲南大学)

## 会員異動 (略)

## 編集後記

新型コロナウイルス感染防止のための外出自粛の長期化は、職住分離を特徴としてきた近代の家族のあり方を大きく揺さぶっているように思います。今は大変苦しい時期ですが、せめてこれが家族研究の新たな発展の契機になればと願っています。

(多賀太・関西大学)